

令和7年度 青少年の家不登校対策事業「第5回ふれあいキャンプ」事業報告書

1 事業内容

(1) 趣 旨 青少年教育施設において、学校生活に悩みを持つ児童生徒を対象に、学習活動、自然体験活動、集団活動、仲間との交流を図ることで新たな自分に気付き、周囲との関係について学び、自分を見つめ直そうとする機会の提供に資する。

(2) 対 象 県内の不登校傾向が見られる小中高生 20名程度

(3) 期 日 令和8年1月24日(土)～1月25日(日) 1泊2日

(4) 場 所 香々地青少年の家

(5) 参加人数 13名 (児童生徒13名、保護者5名)

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	合計
男子			0		3	1	1	1	0	6
女子	1	1	1	1	0	1	1	1	0	7
合計	1	1	1	1	3	2	2	2	0	13

(6) 講 師 大分大学教授 溝口 剛 氏、

(7) 支援者 大分大学学生 14名

(8) プログラム テーマ「かかぢでつながろう」

①活動Ⅰ：「クッキーを作ろう」

ホットケーキミックスを使った簡単クッキーを作った。あえて材料や道具を少なくし、みんなでシェアするような機会としたが、個人活動で精いっぱいだったため、混ぜるまでに時間がかかった。焼きあがるまで自分のクッキーに関心をもち続け、MFと味見しあっていた。

「クッキーは苦手なのでホットケーキにしてもよいか」との相談があった。自己表現は成長のあかしとして認めた。結果、みんなに食べてもらいたいから小さなホットケーキを焼いたようで、焼けたあとみんなに味見を勧めていた。安心して自分を表現できる集団ととらえられているのだろうと考える。



②活動Ⅱ：「大分県立歴史博物館見学」

夜の歴史博物館見学は、ふれあいキャンプ初の試みである。ほかに見学者がいないため、ゆっくりと見学できたのではないかと。桜井館長や小屋課長の説明に質問したり再確認のため動いたり、話を聴いていたと考える。また、後藤家住宅での佐藤さんのクイズにも真剣に回答し、終了後に昔の道具を間近で確認する姿も見られた。



③活動Ⅲ「アイシングしてみよう」

本活動も初挑戦だった。アイシングに特化したため、お店で準備した材料を使用した。発想豊かに作品を作り上げた。ほとんどの参加者が初体験の活動で、大変意欲的だった。講師との打ち合わせではお互いに「1時間ちょっとで終わるのでは」と話していたが、皆時間いっぱいまで取り組んだ。量的に適切だったと考える。



④活動Ⅳ：「のんびりタイム」

今回のキャンプでは、1日目ののんびりタイムが20時からとなり、参加者から「遅い」「もっと早い時間にのんびりタイムがほしい」との声があった。活動も楽しんでいるが、やはり自由に体や心を動かせるのんびりタイムの貴重さが確認できた。

2日目ののんびりタイムでは、竹で弓矢を作る活動を入れた。弓矢づくりを経験したことがある参加者は、MFと体を動かしたり暖かい部屋でボードゲームを楽しんだりした。



(9) 事業評価

参加者アンケート集計 (対象：1泊2日参加者10名)

1. キャンプの満足度

	4	3	2	1	平均
クッキーを作ろう (10)	8	1	1		3.7
歴史博物館見学 (10)	9			1	3.7
アイシング (10)	9			1	3.7

2. 自己評価

	4	3	2	1	平均
活動に積極的に取り組むことができた	8	2			3.8
キャンプを楽しむことができた	8	2			3.8
MFや友だちと話げできた	8	2			3.8
自分のことは自分でする	7	2	1		3.6
MFやともだちの気持ちを考えて行動できた	7	4			3.6

## メンタルフレンドアンケート集計（対象：メンタルフレンド3年生13名）

	4（変化大）	3	2	1（変化小）
意欲	5	3	5	
コミュニケーション	7	3	2	1
自己肯定感	4	5	4	
自立	5	6	2	

### 3 成果と課題

#### （1）成果

- 「MF やともだちの気持ちを考えて行動できた」「自分のことは自分でする」の項目が3. 6評価であり、今年度最高だった。2, 3年越しのリピーターが多かったことで、活動や遊びを通して参加者間に「ともだち」「なかま」感覚が芽生えてきたのではないかと。また、時間を見て行動しなければならない活動（県学や朝食）や一人一部屋使用など、自己選択自己決定の場が増加したためではないかと思われる。本キャンプがめざすところの「社会的自立 社会の一員として責任ある行動をとり人との関わりの中で合意形成する」（文科省資料）ことの出現としてとらえた。

#### （2）課題

- 2, 3年越しのリピーターの活動への嗜好は理解しているので、全体が満足するような活動を今後は検討したい。
- MFには、参加1日目と2日目の変化について評価を依頼している。短期間でのリピーターの変容を測ることは難しいため、今回は視点を作成し、観察・対応していただいた。参加者全員についての説明時間が足りず、参加したての頃を知っている職員にとっては、参加するたびに变化していく様子を評価してほしい感がある。個人対応冊子を作るなど評価手法について今後も検討したい。

#### （3）子どもたちの声（メンタルフレンドに対して）

- 自分のメンタルフレンドと一緒に楽しく過ごしてくれて、ありがとうございました。クッキーを作るときに、手順とか見て色々教えてくれたり、博物館でも色々話を聞いてくれたり話してくれたりして、とても楽し（うれし）かったですー！最後に、2日間、短い間、ありがとうございました。
- めっちゃめっちゃクッキー！very very cookie
- 楽しかった。クッキーづくりが楽しかった。こんどまたあえたら自転車したい！
- 2日間ありがとうございました。楽しかったです。特に楽しかったのは、大なわのはいってとんででるやつです。またきたらしたいです。ありがとうございました。
- 今日と昨日はありがとうございました。クッキーを作ろうでは、材料を持ってきてくれて、作り方も教えてくれたし、アイシングではセンスがよくて思いつかないこともしていたのがすごいと思いました。
- あざした またあそぼ